

杉浦定吉の碑

矢作川が山で崩壊した土砂を沖積活動によって運んで、三河湾を陸地化していた時代、その左岸に大きな自然堤防を積み残した。現在の国鉄東海道線矢作川鉄橋あたりから下流へ約二キロ、現在は岡崎市に編入された旧六ツ美村の村境とほぼ一致した自然堤防である。この自然堤防は大きいもので、その上の中之郷、上・下青野、合歓木などの大集落が営まれていた。集落に付帯の畑もあるが、それよりも湿田となっている部分が多いことがこの村の特徴であった。自然堤防から滲み出す水分が冷水であったため、農作物、主として水稻がこの冷水のため害を受けることが多かった。農家はこれを「小悪水」、冷水の掛かる湿田を「水荒い（みざれ）」と呼んでいた。その原因である滲み出す水を止めることができなかった。そこで、部落で悪水を小さく集め、協力して1ヶ所へ落したのが安藤川であった。安藤川は自分で海まで流す力はなかったから、下流の江原地区を経て矢作古川へ流していた。昔の安藤川は、野川と言っていた。低地であった安藤部落の東側などは、沼になってカモやガンの遊び場になっていた。それを解決するためには、上流を含めて大改修が必要であった。

1882年（明治15）の水害のあと、愛知県では、この難所を開拓するために悪水路の改修を行った。これが、安藤川第一期の改修工事であり、このときから「野川」を「安藤川」と改名した。最上流の宮地から安藤川まで約4km、一直線の排水溝の幹線を設けたが、日々滲み出る「小悪水」を完全には除去することは出来なかった。

それを解決したのは1898（明治31）年になり、大改修の協定ができ、安藤川悪水普通水利組合ができたことからである。それにより、1900（明治33）年と1901年の大改修工事が可能になった。それは、矢作川の天白からの分水によって、六ツ美村の最上流である宮地から暖かい水を無限に流し、村内広くその暖水を分かつことである。矢作川上流の暖水が、「悪水」を圧倒して、六ツ美の稲作を確固たる基礎に立たせたのである。それだけでなく、排水溝が貯水池に流れることによって六ツ美村を不動の二毛作（裏作の菜種）にしたのもこの力であった。安藤川の改修によって事情は一変し、小悪水は圧倒され、稲作はじめ各種農作は一挙に成功し、六ツ美の農業は繁栄をもたらした。これによって二毛作が広く実施され「農業六ツ美」として広く賞讃されることになった。

杉浦定吉は度量が広く勤勉で、村々に悪水排除の方法を主唱し、水路をつくることを郡村で協議していた。1898（明治31）年、水利組合委員会を設けたが安藤川改修の議論は流れ、1900（明治33）年3月にやっと議決し工事が着工した。定吉は率先して奮い立ち、多くの困難を排して工事に責任を持って取り組んだ。その結果、改修工事は1901（明治34）年に竣工した。工事の内容は、水路を改修し、その幅を広げるもので、その範囲は安藤川の上流の多くの地域にまたがっていた。定吉は、私事をなげうって公益のために尽くし、事業を成し遂げた。定吉は1910（明治43）年1月3日病死したが、水路沿いの村々は定吉の業績を永遠に伝え、かつ、このような大改修工事の竣工したことを後の世に伝えるため、安藤橋のそばに記念碑を建てた。記念碑には次のように記されている。

「杉浦定吉、六ツ美村安藤に生る。代々農。安藤村の旧荘屋。安藤川は昔より悪水滞って疎通せず……明治15年三島切れの大水害後、県は少しく改修すると雖も、霖雨氾濫、昔と異ならず、数年に1回僅かに収穫あるのみ。定吉悪水排除の法を主唱し、明治31年水利組合（を組織し）……一死万難を排して工事を督励して倦まず。34年竣工。37大字（あざ）にまたがり関係反別980余町歩。総工費8万1千余円。不毛の地ひるがえって良田となり、純益1万円余の年収を増加する。」

・杉浦定吉の碑（表面 最上部）

「故杉浦定吉碑」と刻印されているようである。



杉浦定吉の碑 最上部

・杉浦定吉の碑（表面）

愛知県知事正四位勲二等 深野一三篆額

杉浦定吉安政元年己未十一月二十一日生於碧海郡六ツ美村家世農父名曰善吉勤同村菖莊屋母名曰うた祖父杉浦善吉二女妻名曰こま同村小川村平民稲垣小市長女舉四男五女明治十七年八月為二十組聯合議員爾來勤郡村公職同三十年六月依明治二十七八年戰役之功木杯壹個下賜郡有安藤川者自昔惡水涵渟不疏通為係水路六ツ美村大字下中島高畑安藤合歛木福桶正名下三ツ木上三ツ木定國中村國正坂左右下青野在家凡四百餘町幡豆郡三和村大字江原尾花米野小嶋西淺井東淺井凡百二十四町不毛之地同十五年各村協議雖少起土工遇霖雨瀦水氾濫不異疇昔數年一回僅有收穫而已獨定吉主唱惡水排除之方法而不止遂係水路郡村協議同三十一年三月設水利組合委員而謀疏通同三十三年三月議決着手工事定吉率先振而立一死排萬難督責工事毫無倦怠所衆人驚嘆也如其水路改修本線延長三千八百三十間幅員平均二十八尺五寸合歛木支線改修開鑿水路延長千百間幅員平均二十四尺同東支線開鑿延長四百五十間幅員平均十四尺五寸同西支線開鑿延長二百三十間幅員平均十四尺五寸赤澁支線改修開鑿延長二千三百十間幅員平均二十四尺上青野支線開鑿延長四百三十間幅員平均十八尺中之鄉支線開鑿延長五百五十間幅員平均十六尺五寸青野支線改修開鑿延長千百三十間幅員平均二十六尺宮地支線改修開鑿延長二千四百三十間幅員平均二十七尺坂左右支線開鑿延長五百十間幅員平均十八尺牧御堂支線開鑿延長七百三十間幅員平均十八尺同三十四年三月竣工所費金額八萬壹千百貳拾五圓餘不毛之地翻為良田年々豐饒所得純益金壹萬餘圓可謂水利組合工事大成功矣定吉資性豁達勤勉拋私事謀公益為己任宿望成就天不假年同四十三年一月三日病死水路沿村如喪慈母愛慕悲嘆於是有志者欲建碑傳之永遠請余記某來由不文亦不得辭眩誌事請彰其功

明治四十四年十月

愛知縣幡豆郡長從六位勲六等榎本秀盛撰并書

篆額（てんがく）：石碑などの上部に篆書で書かれた題字、 聯：つら（なる）、
 舉：こぞ（つて）、 爾：なんじ、 毫：ごう、きわめてわずかなこと
 霖雨：何日も降りつづく雨。長雨、 瀦：みずたま（り）
 倦：あぐ（む）、思うように進まない、 疇：うね、 鑿：切り開く
 開鑿・開削（かいさく）：土地を切り開いて道路や運河を作ること。
 幅員：はば、 辭：ジ、や（める）

・杉浦定吉の碑（裏面）

明治四十五年七月十日
 安藤川悪水普通水利組合建立

[深野一三 (1852~1918)]

深野一三（ふかの いちぞう）は、内務官僚・政治家。県知事、貴族院議員、錦鶏間祇候。1895年香川県知事に就任。1896年、鳥取県知事に転じ、府県制・郡制を施行した。1899年、福岡県知事に発令され、福岡市に九州帝国大学の誘致を推進した。1902年10月、愛知県知事に転任した。名古屋港築港に尽力し、1906年には県内の自治体数を従前の4割程度に削減する愛知県独自の町村大合併を断行した。1912年12月まで在任し退官。



深野一三



安藤川改修記念碑群 安藤町 20150726



杉浦定吉の碑
1912(明治45)年建立
20150726



本項は以下の資料を引用している。

[六ツ美南部の歴史・文化を紐解く]

著者 岡崎市立六ツ美南部小学校 高須 亮平
発行日 2012（平成24）年3月31日 初版発行
印刷所 ブラザー印刷株式会社

[六ツ美村誌]

編者 六ツ美村是調査会
発行 六ツ美村是調査会
発行日 1926（大正15）年12月1日
発行所 日新堂書店
印刷所 活版印刷所

六ツ美村誌には次のように記載されている

杉浦定吉安政元年己未十一月二十一日生於碧海郡六ツ美村家世農夫名曰善吉勤同村舊庄屋名曰うた祖父杉浦善吉二女妻名曰ま同村小川村平民稻垣小市長女舉四男五女明治十七年八月爲二十組聯合議員爾來勤郡村公職同三十年六月依明治二十七八年戰役之功木杯一個下賜郡有安藤川者自昔昔惡水誦淳不誦通爲係水路六ツ美村下中島高畑安藤合歡木福桶正名下三ツ木上三ツ木定國中國正坂左右在家下青野凡四百餘町幡豆郡三和村大字江原尾花米野小嶋西淺井東淺井凡百二十四町步不毛三町同十五年各村協議雖少起工上遇霖雨灌水氾濫不異時者數年一回僅牧獲而已獨定吉主唱惡水排除方法而水立遂係水路郡村協議同三十一年三月設水利組合委員而議疏通同三十三年三月議決着手工事定吉率先振而立一死排萬難督責工事毫倦怠所衆人驚嘆也如其水路改修本線延長三千八百三十間幅員平均二十八尺五寸合歡木支線改修開鑿水路延長千四百間幅員平均二十四尺同東支線開鑿延長四百五十間幅員平均十四尺五寸同西支線開鑿延長二百三十間幅員平均十四尺五寸赤澁支線改修開鑿延長二千三百一十間幅員平均二十四尺上青野支線開鑿延長四百三十間幅員平均十八尺中之郷支線開鑿延長五百五十間幅員平均十六尺五寸青野支線改修開鑿千三百三十間幅員平均二十一尺宮地支線開鑿改修延長二千四百三十間幅員平均二十七尺坂左右支線開鑿延長五百十間幅員平均十八尺牧御堂支線開鑿延長七百三十間幅員平均十八尺同三十四年三月竣工所費金額八萬一千二百二十五圓不毛之地翻爲良田年々豐稔所得純益金一萬餘圓可謂水利組合工事大成功矣定吉資性篤達勤勉拋私事謀公益爲已任宿望成孰天不假壽同四十三年一月三日病死水路村如喪慈愛悲嘆於是有志者欲建碑傳之永遠諸余記其來由不文亦不得詳聊誌事蹟彰其功

明治四十四年十月
幡豆郡長從六位勳六等 榎 本 秀 盛 撰並書